第２回　豊岡市竹野地域小中一貫校開設準備委員会　会議録（要旨）

１　日　時　　2023 年６月 26 日（月）　19 時 00 分～21 時 00 分
２　場　所　　豊岡市役所　竹野庁舎　大会議室
３　出席者　　≪委員≫16 名（委員名簿順）
古保治郎委員、冨森孝委員、仲治寿幸委員、上野真希委員
宮崎裕紀委員、加藤未来委員、太田垣輝尚委員、山本英里子委員
長谷川博子委員、福田達也委員、高田健一郎委員、宇川博久委員
間智子委員、小林昌弘委員、増田克志委員、田中博文委員
（欠席）田村高志委員、大井真由美、辻正孝委員、上田彩乃委員
≪オブザーバー≫１名
米田達也オブザーバー
≪事務局≫
正木一郎教育次長、木之瀬晋弥教育総務課長、寺坂浩司学校教育課長
野﨑律男教育総務課参事兼学校再編・施設整備室長
川瀬貴之教育総務課学校再編・施設整備室係長、今井雄一主査（同左）
４　傍聴者　　８名
５　主な内容
⑴　挨　拶
田中委員長から挨拶
⑵　議　事
ア　委員の交代について
(ｱ)　宮崎委員、高田委員、小林委員及び異動事務局職員より挨拶
イ　先進地視察の報告について
(ｱ)　事務局から、ビデオ動画と写真を用いて視察の報告・説明
(ｲ)　視察参加委員からの視察の感想
※各委員からの視察の感想と質問等については、「６　主な発言内容等（要約）⑴　視察参加委員からの視察の感想と説明に対しての質問等」のとおり
ウ　協議事項
(ｱ)　学校種別を義務教育学校とすることについて（意見交換）
※意見交換の内容については、「６　主な発言内容等（要約）　⑵　学校種別を義務教育学校とすることについて（意見交換）」のとおり

６　主な発言内容等（要約）
⑴　視察参加委員からの視察の感想と説明に対しての質問等
≪委員≫
私たちが到着した時、ちょうど清掃の時間であった。体の大きい９年生と体の小さい低学年が一緒に清掃をしていたのが印象的であった。正直、違和感はあったが、微笑ましい感じ

がした。ただし、清掃本来の目的が果たせているかについてまでは、わからなかった。そこで清掃をしていた９年生に縦割りでの清掃について尋ねてみると「楽しいです」という答えが返ってきた。そういう意味では、一緒にやるということは、教育的にとても効果的に行えていると感じた。

また、江山学園の校長の話のなかで、学年の区切りがブロック制になっていて、４年生が６年生の役割をするという話があり、ある意味では、４年生が凄く成長するということであった。効果的な部分もあれば、課題もあると感じた。

≪委員≫

最初に、学校に入った印象としては、中学校の少し緊張感のある校舎の雰囲気ではなく、小学校の温かい雰囲気であった。子どもたちの様子も、私たちが普段、竹野小学校で感じている雰囲気であった。中学生がいるからという隔てのようなものは、特に感じられなかった。

一番感じたことは、子どもたちは、この環境に慣れていくのだろうと感じた。逆に先生方は、自主性や創造性が求められ、労力が必要になると思う。日々の授業のやり方についても、工夫が必要となってくる。より良い学校を作っていくには、もちろん地域、保護者も大事だが、学校として、どう取組んでいくのかということが大事だと思った。4-3-2 制ということで、いろいろな区切りがあり、それぞれで子どもたちが責任感を持つということについて、意識されており、それを子どもたちも感じ取っているようであった。

≪委員≫

校舎の使い方がとても工夫されていた。中学生には少し広い教室をあてるなど、配慮はされていたが、同じ校舎内ではあるので、中学２年、中学３年にあたる８年生、９年生という大事な学年の勉強に支障がでないか、少し疑問に感じた。グランドデザインがとても良いので、本当にこれが実現できれば、良い教育ができると思うが、そこにいくまでのプロセスについては、先生方の頑張りも必要であると思った。これを実際に竹野でできるなら、子どもたちは幸せな学校生活が送れるのではないかと思った。

各所に相談室があり安心感もあるので、子どもたちが何か相談したいときは、すぐに入りやすい雰囲気があり、とても良かったと思う。図書室ではなく図書館となっており、司書が配置されていたのがとても良かった。それが鳥取県の取組だということで、兵庫県でもできるようになれば良いと感じた。

≪委員≫

白を基調とした清潔感のある色調で明るい雰囲気の校舎であった。入った瞬間に明るい気持ちになるような印象の学校であった。すれ違う生徒も皆さんしっかりと挨拶をしてくれて、生き生きと元気で伸び伸びとした様子で、実際に見るまでの不安な気持ちも解消した。

教室については、元々あった教室を改装して使用されているのか、低学年のクラスは、窮屈そうであった。結構、壁が近いというか、教室と教室の間が狭く、各教室の先生たちの声が廊下にいると聞こえるという印象があり、それが学習の妨げにならないのか気になった。

高学年にあがると広い教室で間取りがしっかり取れる工夫もあったし、長方形だったり、正方形だったりする教室もいろいろあって、面白いと思った。トイレも隅々まで見せてもらったが、バリアフリーで、ほとんどのトイレは洋式になっていた。手洗い場の高さが配慮されていたり、エレベーターもあった。動線が良く、普通教室から特別教室までが廊下で繋がっていて、そのまま、子どもたちが負担なく行ける工夫もされており、過ごしやすい動線で、子どもたちが伸び伸びと過ごせるように感じた。

江山学園の校長が「自分しか今まで経験がなかった義務教育学校に関して知ってもらうため、地域や子どもに少し前から種まきをしていました」と言われ、そこが一番大事なのではと思った。ここだけの話にならず、地域の方や保護者、子どもたちにも声を届けたり、意見を聞いたりしながら作り上げていきたいと思う。

≪委員≫

中学校の立場で参加であったので、単に見て良かったというのではなく、どうしたらこうなるのか、どういうことに気を付けないといけないのかという点に着目しながらの参加であった。私自身は中学校なので、普段小さい子どもには、あまり接していないが、子どもたちが縦割り活動でみせる微笑ましい様子にはとても好感が持て、これが実現できる方法を考えたいと思った。

また、保健室については、小学１年と中学３年が利用する理由は、いろいろと違うので、これらの対応が同時に起きたときにどうするのか、これまでから気にかけていた。保健室を見た時にそこで尋ねたが、まだこの学校でも課題として対応中ですとのことであった。これから、実現に向けてどうするのかというときに、いろいろと先進校の課題や状況も聞きながら、参考にしたいと思った。

≪委員≫

まず、施設については、昨年、東条学園に行かせてもらい、その凄さに圧倒されたが、今回は、規模も増改築であり、児童数も 180 数名ということや、田んぼの中の立地など、竹野の状況によく似ていると感じた。感想は三つ。一つは、教育課程。一つは子どもたち。一つは教員のこと。

まず、教育課程については２点。一つ目、ふるさと学習については、江山かがやき科が設置されていて、ふるさと学習を一生懸命されており、現任校の取組が発展させられ、中学校に行って、ＩＣＴを使ったり、課題解決学習に向かえ、子どもたちなりに考えられるのではと思った。二つ目は、先ほど言われた図書館司書が良いなと思った。話をしたところ、選書や整理について、自身が全部しているとのことであった。実際、小学校も中学校も一緒だが、教員が図書館の司書をしており、選書もままならない状況である。読書活動はそれだけではなく、充実させないといけないので、これができれば良いと思った。

二つ目は、子どもたちについて、これも２点ある。一つ目は、３場面の高学年。つまり、４年生、７年生、９年生のリーダー性の育成については、大きいと思った。４年生がキーポイントと思ってみていた。４年生はギャングエイジでなかなか大変でもあり、面白い学年でも

ある。そのなかでリーダーができたら良いクラスになるのかなというふうに見ていた。二つ目は縦割り班について。１年生から９年生と言えば、かなり幅がある。さすがに、９年生が、１年生をいじめたりしないと思う。やはりそれなりに対応すると思う。そういうことが、１学年１学級では、なかなか社会性という面では難しい。それでいろいろな学年にまたがり、人間関係をつくることは、子どもたちの大きな学びに繋がると思った。

三つ目は、教員のことについて。先ほど中学校の教員の専門性を生かすとか、小学校の教員の強みを生かすという話があったが、まず、専門性については、もの凄くありがたい。例えば、音楽、体育、図工、美術、そのあたりは、もちろん小学校でも得意な先生はいるが、なかなか難しいところで、中学校免許を持っていたら小学校を教えられるので、それはすぐに来てもらえるというのは大きいと思った。逆に小学校の先生は、校内研修で、授業を見せ合ったり、学び合ったりするなかで、小学校の先生の授業を中学校の先生に見てもらい、なるほどという場面は絶対にあると思う。交流をしっかりとすることは、大事かなというふうに見させてもらった。

≪委員≫

学校の規模が、竹野小学校、竹野中学校と同じような規模感であり、とてもイメージしやすかった。とにかく生徒がとても楽しそうに授業を受けていたり、掃除中にもよく挨拶してくれたりと、明るい雰囲気というか、子どもたちが楽しそうにしていたというのが印象に残っている。私はそれほど心配していなかったが、より良くなるのであれば、今、進めている方向性で良いのではと思った。

江山かがやき科については、これがいわゆるふるさと教育だと思うが、竹野の３小学校が１校に統合したから教育するのではなく、もう今から始められることだと思っており、これを売りにするのではなく、これはもうやって当然だと思っている。実際に郷土愛というか、ふるさと愛、今はシビックプライドというのかもしれないが、それを持ってもらえるような教育をする。また、今後、それを豊岡市内にも広げていくのであれば、この先例となるこの竹野地域施設一体型小中一貫校の取組は、凄く良いものであり、竹野だけではなく、市内の他の学校や今後、統合を検討されているような学校の先生方や保護者たちが、ぜひやろうと思えるようなものにしてもらいたい。

≪委員長≫

竹野の場合は、中竹野小学校、竹野南小学校が急激な児童数の減少に伴い、竹野小学校と統合したわけだが、ちょうど見てきた学校が１クラス大体 20 人前後ということで、いい規模だったと感じた。聞いた話では１クラス 18 人くらいが一番良い教育ができると聞いたことがある。いろいろグループ活動ができたりということで、これが 10 人以下になるとなかなか活動しにくいということが起きたり、逆に 30 人～40 人と大きなクラスになると目が届きにくいこともあり、20 人前後の良い環境で、教育されているという印象をもった。実際、子どもたちの挨拶も良かった。

それから私自身、働き方改革についていつも思うが、今の教員は大変激務で、長時間労働

で、よくニュースでも出ているが、教員のなり手が減ってきたということを聞いている。こういう意味で、義務教育学校になったときに、これがどうなるのかなと疑問もあったが、私自身、小学校、中学校両方経験してきて、それぞれの良さがある。小学校は担任制で、自分で好きな教育がしやすいが、中学校になると専門的なことで空き時間があり、今思えば、大変ありがたかった。義務教育学校になったときに、小学校の良さと中学校の良さを混ぜて、うまく融合して先生たちが本当に上手くいけば、今以上に余裕ができるのではないか、お互いにカバーし合っていくことが可能ではと思う。そこにいきつくまでが大変かと思うが、このようなことを感じた。

最後に、豊岡市にとっても、今回、竹野の義務教育学校ができるとすれば、初めての試みになると思うので、どうしても保護者の不安があると思う。本当に大丈夫なのかなという不安が、当然あると思ったので、江山学園の校長に、保護者の不安感というのはどうですかと聞いてみたところ、アンケートの結果、概ね好評でしたとのことで、少し安心した。今日の会議でも、特に保護者がいろいろと不安をもっておられると思うので、それを出してもらうなどし、良い学校ができるようにしていければと思っている。

≪委員≫

何点か質問したい。まず、今回、義務教育学校のことを中心に教えてもらったが、以前の資料などでは、義務教育学校と併設型があったと思うが、今回、義務教育学校のことばかりの資料で、比較であるとか、評価というところが、しづらいなと思っている。実は、事前に子育てセンターの何人かの方に、見せていい資料だけを共有しながら話をさせてもらったが、やはり、義務教育学校と併設型のそれぞれの良さをしっかりと知りたい。何でそうなったのか、説明できるくらい知りたいという意見があった。今回、これを押しておられるということで、どういった意図があって、どういった狙いがあるのか、教えていただきたい。それぞれの課題を、行政であったり、学校であったり、共有して、それにふさわしい学校を考えていきたい。やはり、目指す学校像であったり、子ども像であったりというのがないと、どちらが良いかというのは、考えにくいとの意見があった。

私自身も小学校の教員をしているので、今回のことで、少し難しいと思っていることは、やはり、先ほどから出ている中学校の先生が小学校に、小学校の先生が中学校にというところで、専門性と言うのは簡単だが、それまで経験がないことをするので、そこに難しさもあると思っていたり、今、小学校でも、専科というか、音楽であったり、体育であったり、そういった教科を担当の先生にやってもらうことはあるので、ただ、そういった先生方の声を聞くと一人でいろいろな学年を見るとなると、相談できる相手もいないので、難しさもあるというふうな声を聞く。それが９年間とか、学年が多くなってくると、発達段階が全然違うので、難しさもあると思っている。

そして、いろいろ新しいことにチャレンジするので、考えていったり、しっかりと課題に対して手立てを打っていかないと、しわ寄せがいってしまうのは、子どもだというふうに感じている。なので、今回、資料を見ていても、そういったところへの手立て、課題に対しての対応といったところが見えてこなかったので、今後も考えていきたいし、できれば、この義

務教育学校だけではなく、併設型というのはこんなものなのかと知っていきたいと思っている。先ほどの 4-3-2 制の区切りなどは、無理かもしれないが、掃除やふるさと教育は、施設一体型だったらできないのか、その義務教育学校ならでは、義務教育学校でないとできないことは何なのか、そして、課題は何なのか、施設一体型でできることは何なのか、課題は何なのかというところをしっかりと整頓したうえで、考えていきたいと思っている。

≪事務局≫

回答できる範囲でさせていただく。まず、義務教育学校にするのか、施設一体型にするのかという話があったが、今回、見に行ってもらったのは、義務教育学校で、なぜ、義務教育学校を見に行ったのかということについては、他の自治体などをみても、併設型の学校を義務教育学校へと移管をしているケースが、とても多いということがある。その要因は何かというと、先ほどあった 4-3-2 制とか、中学校の先生が小学校に教えにいく、その逆もできるという、その縦の繋がりだとか、一つの組織だからこそできるものがたくさんあるということだと考えている。義務教育学校となると１年生から９年生という呼び方になったり、校長先生が 1 人になる形があったりなど、違いはあるが、基本的には、併設型の小中学校の上位互換のある学校が義務教育学校であると考えている。

例えば、専門教科の先生が、という話だが、大きな学校でなければ、１学年１学級の学校であれば、専門教科の担当の先生が、基本的には、ほぼつかないか１人つく。すべての科目について、専門教科の先生がいるわけではない。これが、１年生から９年生までとなると、少なくとも、小学校と中学校を足した教員の人数については、確保ができ、お互い相談をし合ったり、教え合ったりということが可能となる。これまで聞いてきたところでは、先生同士もいろいろと向上が図れているということがある。やはり、これは一つの組織であるから、そういった情報交換ができたり、１人の校長先生のもとにそういった組織ができているというところでのメリットなのかなと思っている。実質のところ、義務教育学校と施設一体型とそれぞれ見に行く方が良いのかもしれないが、なかなかそれだけの時間もないし、先ほど言ったように、それほど大きな差はなく、むしろ義務教育学校の方ができることが多いという印象である。他の自治体の視察の資料などを見ても、そういった結論を出しているところもあり、学校も増えているということなので、こちらとしては、まず、義務教育学校を見ていただき、実際、義務教育学校について、感想というか、どういったものかというイメージを掴んでもらうということで、今回、見に行ってもらった。新しいことにチャレンジするのは大変難しいところもあるかもしれないが、これがまず、義務教育学校にするかどうかというところで、カリキュラムなども全く違ってくるので、こちらとしては、カリキュラム構成について、これから時間をかけてしていきたいと思っている。そこが一番重要なのかなと思っているので、まず、義務教育学校をベースとして、ご検討いただければということで、今回の視察となった。

≪委員≫

まだ、やはり、わからないというのが正直なところだ。先ほどの話だと、義務教育学校で

進めていきたいのだろうと感じてはいるが、大きなことではあるので、また、皆さんの意見を聞きながらではあるが、やはり、難しいというか、私もまだわからないところがあるので、これで大丈夫なのかなという不安がある。それだったら、ぜひと思うくらいのところまでには、今日の段階ではいけてないと感じている。

≪委員≫
一つだけお聞きしたい。今回、義務教育学校を視察したが、他に視察する予定があるのかどうか聞かせてほしい。例えば、併設型の視察を予定されているかどうかお聞きしたい。

≪事務局≫
今のところ、今回の義務教育学校のみの予定である。スケジュールの都合や、先ほど言ったように、別の小中学校を見ても、あまり差が感じとれないということはあると思う。本当に 4-3-2 制をしていないとか、校長先生もそれぞれいて組織系統が違うというところになるので、実質、見に行ってもどこが違うのかということになると思う。よって、今のところは、それを見に行くつもりはない。
併設型のところについては、基本的には、学校規模がもっと大きくて、１人の校長先生だとその組織を対応できない程度の大きな規模については、併設型のままで置いているところもあるが、ある程度の、１学年２クラス、３クラスぐらいまでの学校であれば、義務教育学校に移管されている傾向にあるので、そういったことも含めて義務教育学校でどうかということである。

≪委員≫
皆さんに言っておきたいのは、施設分離型の小中一貫校は、今、もう既に実施されていて、竹野小学校と竹野中学校は小中一貫校であるということ。ただ施設は違う。目指す子ども像、グランドデザインは、小中一貫校としてある。例えば、今年は、竹野中学校が当番で幹事をしてもらっているが、５月ごろに研修会をもって、小学校の先生が全員中学校に行って、学習指導部会、生徒指導の関係など、先生同士が交流し合っている。今年はこんなことをしようかなどと話し合っている。夏休みには、今度は、小学校に行き、スクールカウンセラーの方に、大きな問題である不登校について、みんなで勉強しようかなどと、小中一体となって勉強している。これらのことについて、承知していただけたらと思う。
それが一緒になると、義務教育学校では、4-3-2 制などダイナミックな教育デザインをするということになっている。今でも既に施設分離型の小中一貫校をしてるのだということは、承知しておいていただきたい。

⑵ 学校種別を義務教育学校とすることについて（意見交換）
≪事務局≫
先ほどから、義務教育学校にすることについての意見をいただいた。初めてチャレンジすることなので、たくさんの不安もあるかと思うが、ただ、実際、義務教育学校にすることに

ついてのカリキュラムの組立や、それに向けて先生の方との共有についても、いろいろと調整をしていく必要があるので、あまりこの学校種別についての議論を先延ばしにすると、その他の協議が全然進まなくなってしまう。先ほども言ったが、これからカリキュラムについて、重点的に検討していき、それによって先生の配置についても変わってくる。

先ほどあった１年生と９年生が一緒にいることについて、この部分についても基本的には、９年生の背中をみて１年生がなついてということや、年下の子を、いろいろと気遣ってというところで、とても良い効果はあるという報告もいただいている。では、その逆はないかということだが、先ほど、少し発言でもあったが、さすがに中学生が小学１年をいじめたりすることはないかと思うし、その辺も含めて、先生方に目を光らせていただき、いろいろと指導していただきながら、同じ環境で、仲良く過ごすということで、１年生は将来あんな中学生のお兄さんお姉さんのようになりたいというところで、育っていけるような縦の繋がりをつくっていくことが、今回、義務教育学校とするメリットなのではと思っている。

先生についても、負担の部分もあるかと思うが、これからカリキュラムを検討するなかで、課題などについて検討していき、他市の事例や、課題の部分など、一度に全てするのではなく、順序だてて進めていくという方法もあると思うので、まずは、今回、他市の事例も比較し、4-3-2 制にするのかというところも含めて、少なくとも、9 年制の学校にすることによって、先ほどあったようにダイナミックな教育ができ、縦の繋がりもしやすい、あるいは、中学校の先生が小学校に、また、その逆の相互乗り入れなど様々な可能性となる。

すべてがすべて、するということではなく、一度に始めようということではない。徐々に慣れていけば良いと思っている。こちらとしては、今後のカリキュラムの検討をスムーズに、より良いカリキュラムを作れるように、まずは、義務教育学校とする方向で検討させていただいて良いかどうかを皆さんにお諮りをさせていただきたい。今日いただいた意見をもとに、これで良いとか、やっぱり不安だとか、すべてを教育委員会に持ち帰って、次回の教育委員会のなかで、義務教育学校とする方向性について、委員に諮って検討していく、それが終われば、やっと、学校名や校歌、カリキュラムの検討に移れるので、まずは皆さんに義務教育学校とすることについてのご意見をいただければと思う。

≪委員長≫

今日この場で決めるわけではない。最終的には、教育委員会などで決めていかれると思うが、今日は皆さんの率直な意見を聞くという会である。私自身、思うことだが、いろいろと不安もあるとは思うが、教育長が前回、この竹野で最高の教育を作るのだと、何もしなければ、今のまま、ずるずると少子化の波にのまれて、人口減になっていくと思うが、ここで何とか、竹野で素晴らしい教育をできる学校を作りたいという意気込みを言っておられた。そういう意味では、私自身は、いろいろあると思うが、ここで皆さんの意見を聞いたうえで、竹野で本当に素晴らしい教育をしており、子育て世代の方が、竹野に住みたいと思えるような学校を作りたいという思いを持っている。まずは、皆さんの意見をお聞かせ願いたい。

≪委員≫

最終的には、教育委員会で判断されると思うが、やはり、今回、話を聞いて納得できた感じは、今のところない。他のところでしているからとか、増えているからとか、スケジュール的に決めないといけないからとか、これらは、どちらかというと後ろ向きな理由であり、前向きな理由ではないと思う。子どもたちのことを考えて、こんなことをしていきたいからとか、こういうことをしていきたいというところをしっかりと考えていきたいと思っている。

先ほど言ったように、義務教育学校の良さもあるだろうし、施設一体型の良さもあるだろうし、できることできないことがあると思うが、もう少しわかりやすく、比較検討したい。何か大事なところがよくわからない。何ができて何ができないのかというところが、気持ち的なというか、感情的なところが多くて、資料などを見ていても何かよくわからないというところが多い。

そういったところを改めて精査していただき、その上で、子どもたちのためにどちらが良いのかなど、いろいろな保護者に説明する場合も、それが納得できる状態で出していただきたい。微笑ましいとあったが、それが施設一体型ではできないのかなど、今も小中連携して研修していると思うので、２つの学校がある場合と、１つの学校がある場合と、それぞれの良さなど、もう少し明確にしてほしい。

≪事務局≫

先ほど、ビデオなどを見てもらったなかにもあったが、やはり、一番大きなところは、同じ校長先生のもとで中学校が小学校に、小学校が中学校に相互乗入れの授業ができるところだと思う。学校の方も、そこが一番メリットだと話されており、教員についてもそういったところで、いろいろと研修の場がある。子どもたちにとっても、それぞれの個性にあった、専門的な知識を得たり、あるいは、少人数学習や、より多くのいろいろな先生に関われることで、いろいろと感じるところもあると思うので、１年生から９年生というより多くの方に関われる、それも組織が一つであることにより、スムーズにできるというところについては、大きなメリットである。どうしても組織が別々であると、小学校と中学校の隔たりというところも難しいと思うので、そういったところについては、最大限生かせるように、今後カリキュラムの構成や、先生の配置のなかで、検討していくところなのかなと思う。

他がしているからと言うのではなくて、他の自治体で感じておられるメリットをあげた。また、デメリットとしては、それほどないということで聞いている。そういったところも含めて参考にしてもらい、その上で、考えてもらえればと思う。視察に参加された他の委員は、少なくとも１年生と９年生が一緒に過ごすことについての不安は、それほど感じていただいていないと思う。これもメリットと感じていただければと思う。皆さん、意見はそれぞれあるかと思うが、他の意見をもらいながら、検討させてもらえればと思う。

≪委員≫

先ほど、小学校の校長先生が今でも施設分離型でやっているということを言われた。今回、ほとんどの保護者は、普通に竹野小学校が竹野中学校の横に移るだけだと思っている。こんなふうに、いろいろあるということを知らない。私は義務教育学校でも、グランドデザイン

については、今回、見させてもらったところは凄く良かったので、これが本当に実現できるのであれば、良いなあという考えだ。これを今、されているのであれば、今の現状がどうなのか、それが義務教育校になり、ふるさと科なりができればどう変わるのか、というところを、教えていただき、納得しながら、自分も義務教育校の方に寄り添いたいと思う。反対ではないのですが、どうなのかなというところをお聞きしたい。

≪委員≫

まず最初に、義務教育学校については、啓発したくても決まってないので、これがこうなりますと、載せたくても載せられない、それがまずできないということがある。それと、今、ふるさと学習を竹野小学校も竹野中学校も、２、３年前から研究会を持って発表させてもらい、今も小学校は発表の場を設けている。江山学園では文化祭があり、それとよく似たことは、竹野小学校でもしている。コロナの関係でだいぶ変わってきたが、現状はそんな感じある。

それが一つの学校になると、校長のリーダーシップのもとそれができるということである。例えば、細かいことでは、１年生から９年生までの縦割りの掃除ができて微笑ましいとあったが、それが小中一貫校でも可能じゃないですかということだが、例えば、中学校の校長が、掃除というのは、中学校は中学校でさせる。小学校の校長は、いやいや縦割りで仲良くさせる、とここで意見がわかれたら、私たちは同等の立場なので、それはもうできない。ただ、校長が１人だと、下が副校長なのか教頭なのかわからないが、校長が今回は１年生から９年生までさせるぞと言えば、それは通る。そこが結構大きい。校長は、朝の挨拶だけして、何もしていないように見えるが、実は職員の前で、この方針で行こうとベクトルを揃える仕事がある。それが揃うということは大きいと思う。

≪委員≫

今、小中で校長先生が１人という話ですが、どうやってスムーズに繋げるかという話をしながら、共通できるところは共通する。ただ共通するところは共通しながら、やり方はそれぞれやっているという状況なので、やり方について、それぞれやっているというのが、同じ施設になると見えるので、その辺りで変わってくるのかなというところだ。私は、校長の立場だが、例えば、今、小中一貫校が良い、義務教育学校が良いと言っているが、どちらが良い悪いはない。決まったところで、最大限の効果が発揮できるように頑張るのみである。中学３年と小学１年の子どもでトラブルが出ないか。これは、中学３年と中学１年でも同じだし、どうゆうことが想定されるのかということを、もう一度、先生方と一緒に話をしながら、それに合わせて組んでいくということなので、ここでいろいろな意見を出していただいても、こちらが良いとか、これが課題であるということはあるかもしれないが、これじゃないと駄目とか、これしたら駄目とかいうことはないと思うので、心配されることとか、期待されることを出し合いながら、最終的にはいい形でまとめてもらい、後は私たちが、与えられた条件の中で精一杯頑張るので、ご協力をお願いする。そういう気持ちで良いと思う。

≪委員≫

この前、小学校のオープンスクールを見せていただいた。一番最初に、驚いたのは、結構、子どもがいるな。増えたな。ということであった。結果的には、いろいろ心配もしたが、竹野の３校が統合して良かったと思っている。今、いろいろと議論になっている小中一貫校についても、私自身、難しいことはわからないが、子どもも孫もいないので、一老人の意見として、聞いてもらえればと思う。ただ、子どもが主人公であり、地域の宝であるとの思いは、変わらない。今、ずっと聞いていたら、小中一貫校については、メリットがとても多いと思う。いろいろと考えてもらって、ありがたいと思っている。

今、一番問題になっているのは、少子化だ。だから、竹野小学校に統合して一つになった。今度は、中学校で、施設一体型でやろうとなったら、当然、義務教育学校になるのが、人数的にも増えて良いのかなと、私個人的には思う。そうしたら、一番問題なのは、やはり、最初のうちは、先生方がしんどいのかなと思う。子どもは割と順応性があるので、すぐに慣れて、大きい兄ちゃんがたくさんいるとか、僕ら私らも大きくなったら、あんなお兄ちゃんやお姉ちゃんになりたいという憧れを持ってくれると思う。逆に９年生などは、低学年の子どもたちの面倒を見る。先ほど微笑ましいと言われたが、多分、自己肯定感が育つのだろう。そして、僕も私も役に立っている、いわゆる自己有用感が育つのかなというように思う。先ほど言った通り、子どもたちはすぐ慣れるが、ちょっと、先生方はしんどいのかなと思う。子どもたちは、例えば、小学校の子どもが中学校の体育の先生に教えてもらえば、こんなことが出来るのだな、英語の先生に教えてもらったら凄いな、音楽の先生のピアノが凄いな、こんなふうに思うだろう。その代わり先生方は、多少は、慣れるまではしんどいのかなと思う。

決めていただくのはやはり、保護者だ。子どもは、全然わからない。だから、保護者が、いろいろな学校を見に行ったり、冊子を見たり、相談したりしながら、これが良いのかなというふうに、まとめてもらい、ＰＴＡが中心になって進めてもらえば、一番良いのかなと思う。委員として、いろいろな立場のＰＴＡの方がいるので、そこから相談しようというふうにすればと思う。わからないところは、教育委員会に説明に来てもらい、校長先生はオブザーバーでいてもらい、統合の時もそうであったように、ＰＴＡが意見を集約しながら、アンケートをしたりしながら進めていけば良いと思う。一番大事なのは、保護者、ＰＴＡだと思う。そこで、相談して、良い方向に進めていただき、子どもが一番喜ぶようにしたら良いと思う。

≪委員≫

私の通った保育園、小学校、中学校は、すべて統合してなくなった。ですから、そういう経験をしたものの一意見として聞いていただきたい。寂しいのは寂しいのですが、そういうところで育ってきて、先ほど言われたが、やはり子どもたちが、少なくなっているのが、今回、この開設準備委員会ができたというところに行きつくと思う。子どもたちをできるだけ、今の状態から少なくならないように、何とか魅力ある学校にしようということで、みんなで考えようというのがこの会だと思うが、おそらく別々で小学校と中学校とこのままでやっていくと、どんどん少なくなるような気配がする。これを何とか動かそうと魅力ある地域や学校を作ろうと、それが小中一貫校の義務教育学校にして、さらに力強い、地域の力になるよう

な、学校にしていこうというのが、この会議だろうと思う。ですから、私たちは、ここにいる限りは、子どものことを考えてやっているのだと思う。だから、子どもにとってこういう学校が一番だろうな、こういうふうにしていけば、子どもたちは、大きく成長して、立派な社会人になっていくのだろうなというような思いで、そういう個々の検討をしながら、進めたら良いと思う。だから、私も義務教育校で進めていけば、その魅力をもって、子どもたちを育てていけるというふうに思っている。

≪委員長≫
　今日、この場で決めるというわけではない。若干、慎重な意見もあったし、賛成だという意見もあった。そこで、今日いただいた意見、本当は皆さん全員に意見をいただきたかったが、何人かの方にいただいた意見をもとに、これを教育委員会に報告してもらい、皆さんの意見を参考にしながら、最終的には、教育委員の方に判断していただくことになると思う。従って、今日、特にそれ以外で、ぜひにという意見がなければ、次に進めたいと思うが、よろしいか。

≪委員≫
　昨年の 11/16 に小中一貫校説明会を保護者向けにしている。とにかくフラットな形でどちらにしようかという話をさせてもらった。保護者の方は 70 名以上参加されている。今回は、まだＰＴＡの方から意見をいただけてないので、いただけたらと思う。

≪委員≫
　まずは、今の小学校、中学校には、凄く子どものこと見ていただいているという思いがある。学校生活やいろいろな行事などについては、昔と違い、校長先生がブログで発信されたりして、リアルタイムで、生徒の生き生きした顔が見られる。
　いろいろな思いもあろうが、個人的には、今日の義務教育学校については、シンプルに、校長先生が１人になるのか、２人になるのかというところが議論になってくると思う。小学校の先生が言われたように、校長先生が１人いてトップダウンで決めるのが良いのか、２人いた方が良いのかということだと思う。

≪事務局≫
　今、いろいろな意見をいただいた。これまで何度か説明会はさせていただいてきたが、もう少し保護者に対して、具体的に義務教育学校とは何か、普通の学校との違いは何かなどについて、詳しくは説明させていただく必要があったと思っている。その部分については、保護者に対して、改めて、説明の機会を持たせていただき、その上で出された意見を尊重して、検討すればどうかと思うので、提案をさせていただく。

≪委員≫
　義務教育学校という言葉を今日、初めて聞いた。頭の中では、小中一貫校の方が素晴らし

いよということを聞いていて、校長先生も１人で、中学生は７年生、８年生、９年生になるのだなという認識でいたので、今まで私が思っていたのは、義務教育学校のことだったのだと納得した。

また、わかりやすいように、施設一体型の小中学校と義務教育学校の比較対照表を作っていただき、それでメリット、デメリットを書いていただくことが必要だと思った。

あと、子どもをもつ保護者の立場としては、小学校の６年間を卒業して、中学校に入学した時の子どもの衝撃が大きく、私の子どもが中学へあがったとき、男の子、女の子ともに、涙を流して学校に行けないような日が意外とあった。子どもにとって、中学校というのは、割とハードルが高いという認識でいるので、９年制になることは、親子ともども苦労が減るのかなというところに希望が持てた。

≪委員≫

小中一貫校、併設型と義務教育学校、どちらも同じ学校のなかに、呼び方が違うだけで、結局、同じ場所に同じ子どもたちがいる。そのなかで、どのような活動をしていくのかというところが一番肝心なところになっていくと思う。先ほど説明があったように、校長先生は1 人になり、指揮命令が一本になる。これが一つのメリットであり、今と違う区切りもできる。これまでの説明会のなかでも紹介されていた福知山市の夜久野学園の小中一貫校だが、形的には 6-3 制をとっていて、運用的には 4-3-2 制をとっている。ただ、先生は別々の小学校、中学校と別れているというふうに教えてもらったところもあった。制度面ではなく、やはり運用面が大事なのだろうと思っている。選択肢が広がるから、義務教育学校を選択しているというふうに私は理解した。江山学園の校長先生に立ち話で聞いたが、この校長先生は、江山学園に来る前、施設一体型の小中一貫校にいたとおっしゃっていた。何か違いはありますかと聞いたところ、「違いはないです」とのことであった。学年のしばりが違うだけで、やっていることは、ほぼ変わらないとのこと。そのなかで、やるのであれば、より自由度のきく、先生が行ったり来たりできる義務教育学校という方が、学校が目指すやりたいことが、より実現できるのではないか。結局、同じところにいるのであれば、いろいろな可能性が広がる義務教育学校というのが、とても魅力があるのではと私は感じた。

先日、オープンスクールがあり、ほぼ全学年見させてもらった。給食の時間、昼休みの時間とずっといたが、学年で集まり、遊んでいる姿を見た。雰囲気の良い学校になってきている。学校外の話だが、小学生と中学生が結構、遊んでいる姿を目にする。私が見た範囲だが、年の離れた子どもたちが、じゃれ合って遊んでいる。年の離れた子どもたちが一緒にいることについて、もちろん、心配はないわけではないが、竹野の子どもたちは、本当に優しい子どもが多い。トライやるウィークでこども園などで活動している子どもたちもいる。私自身は、正直、そこまで心配はしていない。その子どもたちが一緒に、良い学び舎で、魅力のある教育が受けられる、学生生活ができることに、私は期待したいと思う。

≪委員長≫

今、小学校、中学校のＰＴＡの役員から意見を聞かせてもらった。事務局からあったよう

に、保護者向けのさらに詳しい説明会をもったうえで、今後の審議をしていけたらというようなこともあったので、今日はここで結論を出すのではなく、十分、保護者も納得のうえで、良い方向に進めていけるようにと思っている。

〔議事は以上〕